

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名：

文明動態学研究所

部局長名：

松本直子

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
研究部門 ・文学部および社会文化科学研究科の教育に協力し、授業を開講する。また、指導教員、副指導教員として学生指導を行う。 文化遺産マネジメント部門 ・構内遺跡の調査・研究成果を活かし、博物館実習を行うことで、学芸員育成および実践型社会連携教育の拡充に寄与する。 ・ワークスタディを利用する学生を1名以上雇用し、経済的支援と同時に社会性の育成をはかる。	(8-1-1)	研究部門 学部・大学院で授業を開講し、卒業論文、修士論文の指導を行った。理化学的な分析法や統計的な手法、デジタル技術を用いた研究指導も行き、新しい研究を担う若手の育成に尽力した。文学部優秀卒業論文賞を受賞した指導学生もいる。 文化遺産マネジメント部門 構内遺跡の調査研究成果を博物館実習「埋蔵文化財の取り扱い」に活かし、実習生の指導にあたった。 法学部の学生1名をワークスタディにより雇用し、マネジメント部門の一員として社会性の育成するとともに経済的支援を供した。
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
人文社会科学を核とした分野横断的研究による文明動態学の創造により、持続可能な社会の構築に貢献するという当研究所の目的を果たすべく、以下の取組を実施する。 ①学際・融合領域における新しい研究プロジェクトや研究グループの創成支援及び海外研究機関との連携強化を行う。文化遺産マネジメント部門では構内遺跡の研究を中心に、国内外および異分野の研究者との共同研究を実施し、国際的研究拠点化を進める。 ②若手研究者の育成および研究力強化を目的として、国際研究プロジェクトを実施する。 ③構成員の研究進捗状況を共有するため、研究セミナーを定期的に企画・開催する。 ④研究成果を地域社会、国内外に向けて発信する。	(8-1-1) (8-1-2)	①分野を超えた研究プロジェクトを募集し、13件を採択して新たな研究グループ創生を支援した。このプロジェクト研究を基盤として新たに2件の科研費が採択された。理事裁量経費によりグアテマラのデルバジェ大学との研究交流活動を実施し、今後の全学的な研究交流に向けた基盤づくりができた。国立民族学博物館との包括協定(学術交流・協力に関する基本協定)を締結し、期間連携による分野横断的研究基盤を強化した。文化遺産マネジメント部門では、津島にこれまで知られていなかった前方後円墳があることを発見し、プレスリリースを行ったところ、テレビ、新聞等多くの媒体で取り上げられた。 ②欧州との国際共同研究Be-Archaeoに関して、若手研究者であるJoseph Ryanおよび大学院生の育成を兼ねて研究を進め、国際共著論文が1本刊行された。さらに複数の国際共著論文に向けた研究を実施した。RECTORプログラムで招へいた飯塚客員教授のもと、若手研究者・大学院生と文理融合型研究に関するセミナーを実施した。 ③8月を除き毎月RIDCマンスリーセミナーをオンラインで開催した。セミナーには毎回40人前後から多いときは100人の参加があり、分野を超えた研究進捗状況の共有を推進した。公開可能なものについては、研究所のYouTubeで動画を一般公開している。 ④学術図書として今津勝紀『日本古代の環境と社会』(塙書房、2022.12)が刊行された。今津勝紀『戸籍が語る古代の家族』(吉川弘文館、2019)が第8回古代歴史文化賞優秀作品賞を受賞した。10月に新学術領域研究(領域代表:松本)と共催で開催した国際シンポジウムについても日本語・英語版の動画を公開し、海外からも多くの視聴を得た。また、オンライン・ジャーナル『文明動態学』第2号を刊行した。
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①研究成果を広く社会に還元するため、公開講座、公開シンポジウム、展示会を開催する。 ②文化財の保護・活用を推進するため、地域社会や関係諸機関と連携する。地域の埋蔵文化財に関する事案について指導的な助言を行い、地方公共団体等の埋蔵文化財行政に寄与する。 ③刊行物やウェブサイトを通して研究活動や成果について積極的に分かりやすい情報発信に努める。	(8-1-1)	①新学術領域研究との共催でオンライン公開シンポジウム「協調と戦争」、「コミュニケーションと戦争」、日本学術会議との共催で「文化財保護に未来はあるか」を開催し、高校生を含むのべ550名の参加を得た。参加者のアンケートで満足度が高いことが確認できた。瀬戸内研究シンポジウム「定着型産業の育成と地域社会の持続性の課題」をJST「共創の場形成支援プログラム」および地域農林経済学会中国支部との共催で開催し、動画を研究所YouTubeで公開した。岡山シテミュージアムで文明動態学研究所第1回特別展「津島から世界へ、世界から津島へ」を開催し、約2900名の来場者があった。展示会に伴う公開講座を3回、特別講演会を1回開催した。Be-Archaeoプロジェクトの成果展示を島根県立古代出雲歴史博物館で開催した。また、杉山三郎特任教授による岡山大学先端研究講座「文明探求：メキシコのピラミッドを掘る」を開催した。 ②産学連携イベントである構築ルネッサンス協議会主催「構築ルネッサンスフォーラム2023」の開催、岡山県古代吉備文化財センター主催史跡こうもり塚古墳シンポジウム「吉備最後の大型前方後円墳とその時代」に協力した。また、岡山市、倉敷市、滋賀県の文化財保護行政に対して審議委員等の立場から助言を行い、津山市、丹波篠山市の市史編纂に協力した。 ③研究所のウェブサイト、Facebook、YouTubeを通して、分かりやすい情報発信を行った。展示会期間中は鹿田遺跡の Mascot「しかたん」Twitterでほぼ毎日情報発信し、数百件から数千件のViewがあった。文明動態学研究所編集で『大学の岡山ガイド』(昭和堂)を刊行し、分野横断的な研究所の特性と研究成果を発信した。
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①効率的かつ効果的な部局運営に向けて、必要な規定を作成し、組織整備を行う。 ②本研究所が目指す分野横断的・国際的研究を推進するため、活発な意見交換ができる組織づくりを行う。 ③分野横断的共同研究プロジェクトのインキュベーションに対して、戦略的に予算を割り当てる。 ④国際的研究者の客員研究員、客員教授等としての参画を通して、研究組織の活性化・国際化を図る。 ⑤公開講座の有料化等により、自己収入の増加に資する。 ⑥文化遺産マネジメント部門では、文化財保護法に則り、構内遺跡に対して、建設工事に伴う発掘調査や立会調査を適切に実施する一方、発掘調査報告書作成のための整理作業を進め、発掘調査報告書の刊行につなげる。また出土遺物・資料については適切な保管・管理を行う。	(8-1-1)	①研究所の運営がより適切に行えるよう、研究所の組織・人事等に係る規定・内規を改定・新設した。 ②教授会その他、マンスリーセミナーの企画運営、オンラインジャーナル『文明動態学』の企画編集などにより、活発な意見交換を行い、分野横断的・国際的研究を推進する組織づくりを行った。 ③分野横断的共同研究プロジェクトのインキュベーションに研究所予算の約4割を戦略的に割り当て、新たなプロジェクトを13件採択した。 ④アリゾナ州立大学とのクロスアポイントメントにより国際的研究者である杉山三郎を特任教授として迎え、カリフォルニア大学リバーサイド校、メキシコ国立自治大学、チューレン大学、エルサルバドル共和国国立教師教育研究所、台湾中央研究院から客員研究員の参画を得て、国際的な研究拠点形成を進めた。 ⑤今年度の公開講座はシテミュージアムでの特別展と絡めた企画としたため無料で実施した。自己収入の増加については来年度以降取り組むこととする。 ⑥「文化遺産マネジメント部門では『津島岡大遺跡22』を滞りなく刊行し、構内遺跡に対する立会調査を適切に実施した。昨年度から4月まで実施した津島岡大遺跡第40次調査を完了し、学内向けに現地説明会を実施した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。